評価概要

対象団体名 (公社)日本駆け込み寺
対象事業名 DVや家庭内暴力に悩む社会的弱者に対する相談・支援活動
対象年度 2011-2016年度
助成実績 295,600,000円

評価選定理由 団体の拠点(新宿・歌舞伎町、仙台・国分町)を中心に、DVや家庭内暴力に悩み、相談相手のいない人たちをどれほど支援できているのかを明らかにすると共に、その後の状況までを調査し、今後の本事業の方向性を検討する際の知見を得る。

総合評価基準	
(レベル)	(状態)
S:秀逸である。	目標を上回った上に、予期せぬ有効な副産物があった。
A:優良である。	目標を上回った。(もしくは)目標通りだったが、予期せぬ有効な副産物があった。
B:標準的である。	目標通りだった。
C:改善すべき問題がある。	目標を下回ったが、予期せぬ有効な副産物があった。
D:劣っている。	目標を下回った。

事業要約		評価結果
<p>事業目的</p> <p>本事業の受益者 = DV、家庭内暴力、多重債務、自殺願望、ひきこもり、刑務所出所などで困っている人々</p> <p>DV、引きこもり、刑務所出所者の再起など、いかなる問題であろうと、被害者であろうと加害者であろうと、分け隔でなく苦しむ人々は何人でも受け入れるという姿勢のもと、相談者の悩みを傾聴し、寄り添い、生きる気力を引き出すという活動を行っている。</p> <p>「たった一人のあなたを救う」をモットーに、一人一人の命を大切に育み、人々の自立を支援する活動を全国に広げ、一人でも多くの方が人生の歩みを止めることなく愉しめるような社会の実現を目指している。</p>	<p>事業実施内容</p> <p>(1) 問題解決の支援 ・相談 14,182件/5年 (歌舞伎町本部:12,101件、仙台支部:2,081件) ・区役所同行 10人/3年 ・面接同行 30人/3年 ・家探し同行 15人/3年 ・自立準備ホームの運営 利用人数 83名/4年間 ・シェルターの運営 利用人数 19名/11か月 ・お悩みWomanプロジェクト 15回/3年</p> <p>(2) 普及啓発、地域貢献 ・歌舞伎町パトロール 321回 2,034人参加 ・クリーンアップ 約230回 600人参加 ・玄代表講演 60回/5年 ・トークライブ(主として玄代表) 10回/5年 ・メディア出演(玄代表) ・歌舞伎町ツアー(千葉) 2回/1年 ・小冊子作成 Yo-Ro-Zu 1冊/月 (5冊刊行) ・ウェブマガジン 2回/月 ・漫画作成 3回/2回 ・講話(千葉) 10回程度/5年 ・川越少年刑務所訪問 4回/2年 ・千葉刑務所講話 2回/2年 ・新宿区自殺対策委員(玄代表4期8年間) ・早稲田大学社会安全政策研究会招聘研究員(瀬沼)</p> <p>(3) 基盤強化 ・相談員養成学校セミナー 6~7回 ・電話相談員ボランティア活動マニュアル作成(第6版) ・女子会(ボランティア懇親会) 10回/2年 ・連絡所開設 30ヶ所/5年(現状:2017年3月末で16ヶ所) ・26会(出所者雇用企業との意見交換会) 13回/2年 ・協力企業まわり 3,000社/5年 ・法人寄付依頼 7社/5年(年間10万円以上) ・寄付集め交流会(駆け込み餃子) 24回/2年 ・周年イベント(チャリティーショー) 15回/5年 100~200人</p>	<p>総合評価</p> <p>レベル (S)</p> <p>日本駆け込み寺は、助成を通じて、下記の4点を達成した。</p> <p><u>現場レベルの達成</u> ・相談経験の蓄積 膨大な件数と困りごとのタイプを引き受けることで、さまざまな問題に対する支援スキルと支援レパトリーを身体化することができた。 ・事業の運営経験の蓄積 住まい(シェルター、自立準備ホーム)、就労先(駆け込み餃子)などを運営し、運営経験を蓄積した。</p> <p><u>政策レベルの達成</u> ・日本駆け込み寺単体としての全国展開の失敗体験 日本駆け込み寺は、全国各地に連絡所を展開しようとしたが、結局この構想は成就しなかった。 ・既存の全国団体(国や宗教団体)を通じた全国展開の提案 前者は国に対するハートコール(ワンストップ相談窓口)の提案、後者は立正佼成会との連携による駆け込み寺の全国展開構想として結実している。</p>
<p>事業目標</p> <p>(1) 問題解決の支援 対象:様々な問題を抱える多くの人々 目標:相談者の問題解決につながる支援を行う。</p> <p>(2) 普及啓発、地域貢献 対象:駆け込み寺活動のことを知らない、関心がない人々 目標:悩み苦しむ人を一人でも多く救うために、駆け込み寺活動をより多くの人に知ってもらい、理解してもらう。</p> <p>(3) 基盤強化 対象:組織の人材やボランティア等の協力者、支援・連携の可能性のある人々・組織 目標:人材育成などの組織としての事業運営力強化。支援者・協力者の増加、多様化、連携先の拡大。</p>	<p>改善提案例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自団体の現場レベルでの支援スキルが全国的にみて優れていることを自覚し、その普及に困難が伴うことを予期すること ・現場相談員の支援スキルが高いことを広く伝えること ・行政における類似事業(例 生活困窮者自立支援事業)との連携を図り、自らの支援スキルの普及先を確保すること ・直営事業をふやすなど、予算比率において、安定部分を増やすこと 	
		<p>総合振り返り(事業担当部署使用欄)</p> <p>本事業については、実施内容に関しては高い評価結果を得たが、一方で組織の運営、経営については疑問符が付き、全国展開の失敗の指摘を受けている。団体の立ち上げに関しての貴重な事例であり、立ち上げ当初の構想に無理がなかったか、2年目以降の運営のどこに問題があったか、どうすればよかったかなどの教訓を本事例から得て今後活かしたい。</p>